

科目	心理学				
時間数	1 単位 15 時間	授業方法	講義	授業時期	1 年
講師名	⑤十河 治幸				
実務経験	⑤臨床心理士(医療機関)				
ねらい	・患者・家族との関係の構築において、看護師に求められる患者・家族の言動の理解や受容について心理学の観点から学ぶ。 ・生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識を、対象の理解に活かすことができる。 ・自身の性格傾向を自己分析することで日常生活のメンタルヘルス・セルフケアに活かす。				
目 標	1. 看護実習や将来看護師として臨床の場に就いた時の患者やその家族に対する基本的心理的対処、また自身の看護師としてのセルフケアとメンタルヘルスの理解。 2. 自身の性格傾向を知り、自身を客観的に理解する。				
授業計画					
回	内容				
1～3	ケースを扱ったテキスト(「ストレス分析で導く困った患者さんの対処法」)を用いて、模範例 実際上の問題を挙げ、臨床の場でどのような対応が可能か、また看護側の心理にも着目し メンタルヘルスについてもふれる。 1:なぜナースはストレスを感じるか / 患者の言動を理解するために 2:ナースが陥りやすい危険な心理状態 / 事例「うつ」 / 事例「認知症」 3:バーンアウトと防衛機制、認知症の特徴について				
4～6	e テキスト「心理学」と副教材「看護学生のための心理学」を中心に心理学全般を学習し、国家 試験の傾向にふれる。また、心理学の知識や技法を臨床で応用するのはもちろん、学生生活 や日常生活での対人関係やセルフケアにも活用できる内容を考えている。 4:第11章「医療・看護と心理」:ストレスマネジメント /第9章「発達」:乳幼児の発達段階、 児童・青年期の発達段階 5:成人・高齢者の発達段階 / 第10章「心理臨床」:心理検査と主な心理療法 6:第7章「性格とパーソナリティ」:性格の理論と知能検査について				
7	講義開始時と後半終了時の2回、自己の性格傾向を知るためのエゴグラム(TEG)を実施。 実際のカウンセリング場面でもよく用いられる質問紙型の検査である。 この2回の結果で、自身を知るきっかけとし、最終の筆記試験と合わせて「自分の分析をした レポート」を提出し、総合評価とする。自己評価とレポート課題について説明する。				
8	まとめ 国家試験対策 (心理学分野の傾向)				
評価方 法	その時間数の 3 分の 2 以上の出席者に限り受験資格を与える。 学科終講時に行う筆記試験 90%、レポート 10%総合して評価する 60 点以上を及第点とする。				
教科書	看護学生のための心理学:医学書院 心理学:医学書院				